相談電話　027-221-0783（おなやみなら）

群馬いのちの電話だより

2016.6　No.58

編集・社会福祉法人群馬いのちの電話 広報委員会
住所・〒371-8691　前橋中央郵便局私書箱６号
電話・事務局 027-221-1880 FAX027-220-5666

いのちとは

東京いのちの電話理事、援助修道会会員
連盟派遣 FD 研修講師　林　義子

■はじめに

今日、私は“いのち”について、２つの内容でお話ししようと思います。

１つは、東京いのちの電話が始まって45年になりますが、いま「いのちの電話」が日本の社会の中でどうなっているのか、私なりに理解したことをお話したいと思います。

もう１つは、皆さんに「あなたにとっていのちとはなんですか」ということを考えていただきたいのです。まずは、私自身がどう捉えているかについてお話ししたいと思います。

■「いのちの電話」発足の頃

東京いのちの電話が開局したのが1971年です。４月に事務局ができ、10月１日の午前12時に電話を受け始めました。

準備のために学んだのが、オーストラリアのライフラインという組織でした。そこでライフラインのライフ＝いのちをそのまま付けて「いのちの電話」としました。当時の社会は、そんなに“いのち”って言わなかった。むしろ“心”のほうが多かったような気がします。でも、先見の明があった名前だと思います。

1960年代は、日本経済が世界に追いつけ追い越せと走り出す最初の頃でした。当時の総理大臣は池田勇人氏で、彼は10年計画で一般の家庭の収入を倍にしたいと国民のお尻を叩いた。いろいろな企業が、地方から中学卒業生を東京や大阪に集め、その金の卵たちが、仕事の後、寮から寂しさを訴えるために電話をかけてきました。

70年代に入ると、いわゆる“かぎっ子”の問題も出てきました。今、子どもたちのいじめの問題が大変なことになっていますが、そのころから始まりました。当時は、いじめではなくシカトと言っていました。シカトが、登校拒否になり、その次が家庭内暴力です。その後は、校内暴力、学級閉鎖…。それらが凄い早さで教育問題として社会で取り上げられるようになりました。

これらの問題は新聞よりも早くいのちの電話に入ってきました。いのちの電話を通して、日本社会の実体がそのまま伝わってきていると思

相談電話　027-221-0783（おなやみなら）
相談受付時間　午前9時～午前0時（年中無休）

深夜
☎027-221-0783
毎月第2・4金曜日は24時間受信
フリーダイヤル（毎月10日）
0120-738-556（8:00～翌8:00）

▲穏やかな口調で語る林先生

います。この実態をいのちの電話は社会に向けて発信していくことが必要ではないか？と思っています。電話の内容についての匿名性は絶対的に守らなければなりませんが、いのちの電話が社会に送るメッセージがあるのではないか？と思います。このことは群馬いのちの電話でもぜひ検討していただきたい。

■いのちが軽視されてきた時代

所得倍増論は10年達成を目途にしていましたが、７年間で一般家庭の収入が２倍に達しました。90年には先進国の仲間入りをしました。私は、1992年から仕事でパリに住んでいましたが、フランス人のシスターが、「今日も日本人がオペラ座の中にいっぱいいたよ」と報告するほど、当時の日本の経済的発展は目を見張るようでした。その裏で、苦しんでいる人がたくさん出てきました。山一證券が潰れたり、大企業や銀行が破産するなど、バブル経済の終焉は国民の間に悲そう感として広がりました。

私は2002年に日本に帰ってきましたが、そのころの日本も社会的にはひどい状態でした。いのちそのものに危機を感じさせられる事件が多くなっていました。その一つが2005年４月に起きたJR福知山線脱線事故です。尼崎から大阪方面に行く電車は、同じコースを３つの会社が走るために、スピードを争った結果としてあのような事故が起こったのです。

人間が人間として大切に扱われていない。人間的な条件を考えないで、企業収益を優先させることが大切にされた結果と言えるように思います。当時の犯罪をみると怖いことが起こっています。例えば80年代終わり頃の宮崎勤の事件。その残忍性とか、その生活形態が「おたく」という言葉で社会全体に広がっていきました。

21世紀に入ってからは、無差別殺人といわれるケースが多くなってきました。秋葉原通り魔事件は、日曜日の歩行者天国の中に車で突っ込んで、多数の犠牲者が出ました。一人の青年が東京に出てきて、仕事を探していた時期は、ちょうど派遣労働が始まった時期です。彼は、富士山の麓の大きな工場で終日働き、夜は寮で一人で生活する。その中で起きた事件です。会社の責任は大きいと思いますが、そこに働いている人のいのちが疎かにされていたのではないでしょうか。

■人と関わらなくなった私たちの生活

昔から日本社会は人と人との関係を大切にしていたと思います。「男はつらいよ」の寅さんのような世界がいたるところにありました。しかし、日本が必死になって先進国に入った陰で、普通の人のいのちを危険にさらすような社会になってしまったと言えないでしょうか？

いま日本社会に足りないのは何かというと、関わりです。普通の生活の中で無駄話がなくなっています。ゆとりが減ってきているのです。その底辺に、人々の孤立感を感じます。孤独死する老人、子どもたちのいじめの問題などが後を絶ちません。最近大きな事件として、川崎の中学１年の遼太君の事件があります。真冬の河川敷で亡くなりました。加害者は、取り調べの中で「悪かった」と言っているそうです。「一度人を殺してみたかった」と言う子どももいます。その奥に、私たちの社会が人との関わりがなくなっていること、他者との関わりから逃げていること。そして、自分ひとりの世界の奥に

入る。自分のいのちにも、他人のいのちにも関心をもたない。そのような子どもたちの裏に、家族の問題がある。子どもたちが温かい関係で関わってもらえていない。家庭がかれらの「居場所」になっていない現実がいっぱいあるようです。

■売春する若い女性たちのこと

東京の歌舞伎町は、数ある売春宿の場所のひとつです。そこで中・高校生の売春がビジネスになっているのです。「お金が欲しいから」「興味本位でやっている」と言う人もいますが、実際はその背景に家庭の破壊があるのです。彼女たちは「家に帰りたくない」と外に出て、お金がないので、手っ取り早く売春に走るのです。元経験者の女性が、自分の仲間たちを助けるためにシェルターを作りたいと、基金を集めています。彼女の家庭もシングルマザーで、母親は朝から晩まで働いていた結果、うつ病になってしまったのです。その中で、他の女の子たちのように、売春に走るのです。もし、いのちの電話の存在をその子たちが知ったら、一人くらいは電話をかけてくるかもしれません。

外国から見ると、日本のように豊かで、安定して、便利で、清潔な国はないと言えます。

私たちはいのちの電話にかかわって、今、ひとりで悩み、苦しみ、他者を必要としている人が、私たちの周囲に一杯いることを知っています。ボランテイアとして電話に出て大変なこともあるでしょうが、仲間がいます。

いのちの電話で一番大切なことは、一人が一人と正面向かって話す、関わる、聞くことです。普通の生活でほとんどされていないし、できないことです。それが電話を通して、実現できるのです。これはとても大切なことです。かけて来る人が一番相手に求めることは、分かって欲しいことです。私を受け入れて欲しい、分かるためには関わらなくては分からない。関わるのは言葉ですが、生の声で関わることがもっとも大切なことです。

■いのちをどう考えているか言語化する

もう一つ大切なことをお話したいと思います。

いのちの電話は、これから先、いのちに関わることが電話の内容として、以前より多くなっていくように思います。そのために、それをどう聴くかというハウツーだけではなく、自分自身がいのちをどう考えているか、それを自分で言語化しておく必要があるのではないかと思っています。

今朝、朝日新聞のデジタル版を見ていました。それにマイクロソフトのビル・ゲイツの記事が出ていました。彼はこの5、6年、ずっと世界の長者番付で1位になっているお金持ちですが、そのお金を社会的貢献に使っています。その彼は「僕にとってすべてのいのちは同じ価値がある」と言っています。この人は優秀だから価値がある、この人はそうでないから価値がないというのではない、それがビル・ゲイツのいのちについての考え方、価値観です。

皆さんも「あなたにとっていのちとはなんですか」ということについて考えてみてください。

■“与えられたいのち”ということ

ここで私が、いのちについてどう考えているかについてお話したいと思います。

私が一番に感じる事は、与えられたいのちということです。日本語だと「私は何月何日に生まれました」と言いますが、英語だと「I was born」です。これは受動形です。私がひとりで生まれてきたのではなくて、“生まれさせられた”という意味です。私はキリスト者ですから、神様が与えてくださったいのちというのが私のいのちについての価値観です。

私たちのいのちは、何かのために与えられているのです。何のためかというと、他の誰かとの関わりながら生きることです。聖書の中に「人

はパンのみで生きるにあらず」という言葉があります。では、何によって生きるのか。聖書の中では「神の御言葉によって生きる」と言っていますが、“神の言葉”というのは“人を通しての言葉”です。人と人との関わりの中に与えられる神の言葉です。私が夜中の相談電話で聞いた相手の言葉は、「やっと私はあなたとつながりました。それでやっと眠れます」という言葉でした。「今日一日、誰とも話さなかった」と。一日家の中にいて、誰とも話さなかった。いのちの電話にかけて、電話がつながった。初めて言葉が出た。それほど言葉って大切なのですし、関わりの大切さでもあります。

その人に与えられた言葉が、その人を大きく、広くするのです。私たちは、生まれてきた時、お母さんの腕の中で言葉をかけられました。それなしには私たちは今ここにいないのです。新しいいのちを受け入れてくれた関わりがあったので、私のいのちが生き、私たちはここに今いることができるのです。

そのような意味では、いのちの電話も他の人に生きるちからを相手に与えているのです。最初は、かけ手が一方的に話すかもしれないけれど、どこかで自分自身を開いていかなければならない。これが専門家でもない、何かの役割を持っている人でもない、ひとりの人間として関わっていくことができ、相手だけでなく、自分も生き続けることができるのです。

■パリのテロから見えること

いのちが大切にされていないという状況は、世界中であります。今日はちょうど、パリのテロから1か月目です。このテロで奥さんが犠牲者になった方が、次の日に自分の思いをインターネットで世界中に発信しました。その内容は私たちに希望を与えてくれます。この方は37歳のジャーナリストで、テロのあった劇場に奥様と一緒にいて、奥様が亡くなりましその翌日、彼はテロを起こした若いISの兵士たちに向けてこの手紙を送りました。

「金曜日の夜、君たちは、私の素晴らしい人のいのちを奪った。私の最愛の人であり、息子の母親だった。でも、君たちを憎むつもりはない。君たちが誰かも知らないし、知りたくもない。君たちは死んだ魂だ。君たちは神の名において無差別の殺戮をした。もし神が自らの姿に似せて我々人間を作ったのだとしたら、妻の体に打ち込まれた銃弾のひとつひとつは、神の心の傷となっているだろう。だから決して君たちに憎しみという贈り物はしたくない。君たちの

▲熱心に聞き入る参加者たち

望みどおり憎しみという気持ちで答えることは君たちと同じ無知に屈することになる。君たちは私が恐れ隣人を疑いの目で見つめ、安全のために自由を犠牲にすることを望んだ。だが君たちの負けだ。私はまだ戦うつもりだ。（これはすこし言葉が分かりにくいと思いますので、少し変えますが、私はそれに立ち向かいますよということです。）今朝、ついに妻と再会した。（これは夢かなんかだと思うのですね。）毎日、待ち続けた末に、彼女は金曜日に出かけたときのまま、そして私が恋に落ちた12年以上前と同じように美しかった。もちろん悲しみで打ちのめされている。君たちの小さな勝利を認めよう。でも、それはごくわずかな時間だが。妻はいつも私たちと共にあり、再び巡り合うだろう。君たちが決してたどり着かない自由な魂の天国で。私と息子は二人になった。でも、世界中の軍隊よりも強い。そして君たちのために割く時間はもうない。昼寝から目覚めたメルビル（息子の名前）のところに行かなければならない。彼は生後17ヶ月で、いつものようにおやつを食べ、私たちはいつものように喜ぶ。そして若い彼の人生が幸せで自由であり続けることが、君たちをはずかしめるだろう。彼の苦しみは勝ち取ることもできないから。」

彼はテロによって奥様を殺されるという大きな犠牲を払った。でも、遺された17ヶ月の息子に昨日と同じようにミルクを与える。テロを起こした人へのこと憎しみの気持ちではなく、幸せな気持ちで日々を送ることで、自分たちは幸福な人生を勝ち取ることができるだろう。その覚悟は素晴らしいなと思います。

日本もいつテロに襲われるかわかりません。でも、そういうことがあっても、私たちは与えられたいのちを大切に送っていく。先のことを悩むよりも、いまの現実の中で、昨日と同じように今日の日を送っていく。そのような個人の一人ひとりの生き方の中に、未来とか、夢とか、希望を持てるのかなと思っています。

2016年度（第25期）相談ボランティア募集
2016年10月開講

いのちの電話のボランティアは市民による社会貢献の活動です。参加しませんか。

【受講生募集内容】

募集人員／30名
対　　象／原則として20歳以上68歳まで
申込期間／2016年４月１日～８月31日
募集内容／募集要項をご覧ください。
☆問合せは群馬いのちの電話事務局まで

【養成講座内容】

【前期】

期　　間：2016年10月15日（土）
～2017年７月29日（土）
時　　間：原則として第１週を除く土曜日
午前９時30分～11時30分
会　　場：群馬県社会福祉総合センター
（前橋市新前橋町13-12）
受 講 料：25,000円

【後期】

受講資格：前期要請講座修了者
期　　間：2017年８月予定～2018年９月

《事前説明会のお知らせ》

①６月26日（日）　午後１時30分～
会場：県社会福祉総合センター
○公開講座同時開催「講師：鈴木せい子」
②７月23日（土）　午後１時30分～
会場：県社会福祉総合センター
○公開講座同時開催「講師：小栗康平」
③７月30日（土）　午後１時30分～
会場：高崎市総合福祉センター